

3,000 本の大輪が開く

7月初旬から中旬にかけて、御厨町中野免の中野植栽園の約3,000本のヒマワリが開花しました。

中野植栽園は、中野育成会（松本健嗣会長）が、通学路沿いにある畑を借りて、植物の栽培を行っているもの。子どもたちに花を育てる優しい気持ちを持ってもらいたいと、ツツジやコスモスなどの栽培に取り組んでいます。

3月下旬に中野地区の住民と共同で、約10畝の畑に種をまきました。花が咲き始めたヒマワリ畑には、ミツバチやチョウがみつを求めて飛び交い、通学する児童・生徒の目を楽しませていました。



まちの話題



志佐小児童がイモ挿しで 三世代交流

6月20日、志佐小学校の児童や里地区の老人会「里不老会」（山本昭一会長）の会員によるイモ挿しが、志佐町里免の畑で行われました。

三世代交流の一環で、毎年、同地区の藤本安二さん（志佐・里2、85）の畑を借りて行っています。

この日は、同校の4年生と里不老会や児童の保護者など約100人が参加。1,000本のサツマイモの苗が準備され、参加者たちは里不老会の会員に指導を受けながら、約1時間半かけてイモ挿しを行いました。

苗を植えた竹下楓さん（志佐・下高野）は、「サツマイモは大好きです。収穫までにたくさん実ってくれるのを楽しみにしています」と話していました。

大きくなったサツマイモは、11月ごろに同校の児童で収穫し、5年生が収穫したもち米を使ってイモもちを作って味わう予定です。



東高で地域開放講座がスタート

専門知識を市民に教える地域開放講座が7月7日、松浦東高校（山口和秀校長）で開講しました。

学校の教育機能や施設を開放し、市民の文化活動の促進を図るため、今年は「楽しい食品加工」の講座を開催。同校の6人の教諭が講師を務めます。

初回のこの日は、開講式があり、市民20人が出席。参加者を代表して鴨川しのぶさん（福島・日の浦、36）があいさつ。式後、参加者は講師の指導を受けながら、パウンドケーキ作りに挑戦しました。

今後は、パンや菓子、うどん製造などの講座が、9月まで計5回開催されます。

中央公園が花いっぱい

あじさい会（勝山日佐子会長）の会員が6月29日、松浦中央公園の花壇に花を植えました。

同会は、松浦ロータリークラブの会員の妻で結成されたもので、ロータリークラブの会員たちと一緒に柚木川内キャンプ場の清掃作業などの活動を行っています。

今回は、7月7日に同公園で予定されている七夕まつりを前に、公園を華やかにしようと行ったものです。



この日は、会員約10人が、サルビア、マリーゴールド、ケイトウなど約300株の花苗を、公園の花壇に植えました。

児童などがマダイを放流

佐世保・平戸・松浦地区のごち網漁業者でつくる「三地区ごち網連合会」（柴山万徳会長）が6月26日、マダイの稚魚25,000匹を鷹島町の阿翁浦漁港沖などに放流しました。

同連合会が、水産資源確保と「捕る漁業」から「育てる漁業」への意識改革のために、2年前から取り組んでいるものです。

この日は、会員のほかに鷹島小学校の5年生17人も参加し、7隻の漁船に乗り込みました。阿翁浦漁港沖では、児童たちが歓声をあげながら、バケツに入った体長約5センチのマダイの稚魚を海に放流しました。



障害を親子で克服 つよし 一掛屋剛志君コンサート

知的障害や視覚障害がある佐世保市の掛屋剛志君の「音楽がつなぐ家族の絆コンサート」が6月24日、文化会館で開かれました。

松浦ライオンズクラブ（深見静雄会長）が、1,000回例会記念行事の一環として開いたものです。

生まれたときから障害のある掛屋君は3歳で鍵盤ハーモニカに出会い、両親に支えられながら、ピアノの演奏技術を身につけました。

この日は、オリジナル曲「おかあさん」など10曲のピアノ演奏とダンボール箱を使ったパーカッションを披露。会場いっぱいの観客は、掛屋君の演奏と優しく澄んだ歌声に大きな拍手を送っていました。



東高生が苗木を寄贈

松浦東高校の生徒が6月18日、市役所に花の苗を寄贈し、市役所表玄関の花壇に苗を植えました。

生産流通科の3年生が、草花、果樹、野菜を生産する生産コースの実習として行ったもので、寄贈したのは、マリーゴールドとサルビアの苗約700株と、苗を植えたプランター20鉢。

この日は、同科の9人が、花壇に花の苗を植え、市役所玄関横などにプランターを並べました。

花を植えた永石みつ江さん（田平町）は「種から育てた花。市民の皆さんが喜んでくれたらうれしいです」と話し、寄贈を受けた黒田省司副市長は「生徒の皆さんが丹精込めて育てた花。季節の便りを届けていただきありがとうございます」と話していました。

花は、秋ごろまで楽しむことができます。